

米欧亜回覧

第70号
発行

特定非営利活動法人
米欧亜回覧の会

編集委員会

四月十四日(日) 年次総会と上村達男氏の講演

米国流アベノミックスの盲点

「法」に目覚めると「真」に元気になる!

四月十四日(日)午後一時半より、年次総会と講演会が国際文化会館で開催される。

総会では事業並びに決算報告及び新年度の方針並びに事業計画などの発表がある。

また、二時半から予定される講演会には、早稲田大学の二十一世紀COE総合研究所所長の上村達男氏をお招きし、現下わが国の最大の問題「アベノミックス」についてお話を聞くことになった。上村先生は会社法・証券法の権威であり、かねてより米国流市場主義や金融



明治記念館の庭園と新年懇親例会会場

資本主義の暴走に対し法学者の立場から痛烈な発言をされていることで知られる。また、「日本文化の精髓」比較法との解釈から「西欧に学び西欧を越える理論モデルを作れるのは日本だけ」という主張で国際的にも注目を集めている。

貴重な機会なので、関心のある友人知人も是非お誘いいただきたい。

新年懇親例会、日本をテーマに格調高く開催!

一月十八日(金)、平成二十五年の新年懇親パーティーが明治記念館で開催され、約三十名が参加した。

使節団百四十年目の節目でもあり、テーマ国は、訪問十二か国と中国、インドを経て「日本」に戻った。明治記念館には、明治憲法草案審議の御前会議が行われた「憲法記念館」があり、会場となった「相生の間」のテラスにでると庭園越しによく見ることが

できる。これは、憲法制定に功績のあった枢密院議長伊藤博文公に下賜された建物である。

使節団のご子孫の方々や本会の関係の皆様にもご参加をいただき、後半には参加者全員が一言ずつコメントを述べる機会もあり、和やかな新年の懇親会となった。

(詳細は二頁)

五月に松代、佐久、小諸をバスで巡る、信州歴史ツアー企画
五月十五日(水)と十六日(木)、久しぶりに当会の歴史ツアーが行われる。

主な旅程は、長野駅集合後、佐久間象山を偲んで、象山記念館、象山神社、象山旧宅、蓮乗寺(墓)や真田宝物館などを見学し、島崎藤村ゆかりの宿「中棚荘」に一泊。

二日目、小諸懐古園、旧中込学校(明治八年創建、国内最古級の洋風学校)、龍岡城五稜郭、藤村旧宅などを見学の後、橘倉酒造(会員の井出氏実家で、元禄以来三百年の酒蔵)にて、井出家に残る先遣遺墨の数々を見せて頂き、佐久平駅解散。定員二十名。

(詳細は三頁)



佐久間象山肖像
(象山記念館)

過日、宮内庁「三の丸尚蔵館」で「明治十二年明治天皇御下命人物写真帖」の展示を一覧した。これは天皇秘蔵の「群臣たちの肖像写真集」であり、世界にも類例のない、明治日本ならではの貴重なアルバムだと感じ入った。

まず、その庄重なる装幀が立派である。次いでその量がすごい。全三十九冊、四千五百三十一名収録という。それに、いかにも日本的だと思つたことは本人たちの和歌漢詩が多く(六百二十一名)添えられていることだ。

その由来には「明治天皇が深く親愛する群臣の肖像写真を座右に備えようと、その蒐集を宮内卿に命じられた」とある。そして「往年侍補高崎正風、同元田永孚と御前に祇候せる日、明治の功臣の写真を蒐集して添ふるに、其の歌詩を深かるべきを聖聴に達し」とあり、詩歌も添えることになったというのである。

さらに目に付いたのは、写真集の背表紙に金文字で打ち出された「偕楽」の二文字である。これは皇族・大臣参議編(五十名)と、元老院・編

偕楽・和偕・共愉

泉 三郎

修官編(四十九名)の二冊だけに印字されており、天皇のお傍に常備された特別のものだったことを想像させる。明治十二年といえ、十年に西南戦争があり、維新期の最大の股肱ともいえるべき、西郷隆盛、木戸孝允を亡くし、十一年には大久保利通を亡くしている。そうした思いが當時まだ二十八才だった明治天皇の御下命の背後にはあったものと察せられるのだ。

「偕楽」とは共に楽しむという意味である。私は、先年上海で開催された「万国博覧会」で「和偕社会」を標榜していたことを想起した。それは同じ儒教の伝統に生きてきた中国人にこの精神が底流していることを想わせる。また、近代文明の名家、欧米社会への批判として、ラトローシュなどの哲学者が「共愉」とも訳される「conviviality」という言葉を多用していることも思った。世界的に所得の格差が目立つ今日、あらためて君と民、上司と下司が格差なく共に楽しむ「偕楽」の語の重要性を見直すべき時だと思つたのである。

新年懇親例会、 日本にもどり、使節団(特に伊藤博文)縁の明 治記念館で開催!

一月十八日(金)、第六十六回全体例会として恒例の新年懇親パーティーが開催され、約三十名が参加した。

今年で十五カ国目となる新年懇親例会のテーマ国は、使節団百四十年目の節目でもあり、一昨年来拡大して開催した中国、インドを経て久方ぶりに日本にもどりました。

会場は、明治憲法草案審議の御前会議行われた「憲法記念館」も残る明治記念館の「相生の間」。

使節団のご子孫の方々や本会の関係の皆様にもご参加をいただき、和やかな新年の懇親会となった。



全員で記念写真(明治記念館・相生の間)

【懇親パーティーの概要】

パーティーは十二時三十分から石垣禎信理事・事務局長のオープニングで始まった。ゲストのご紹介の後、泉理事長がスピーチ。

恒例の挨拶の後、安倍新政権について「捲土重来の二度目の組閣ということと並ならぬ決意が伺われ、慎重な滑り出しとともに大いに期待される反面、威勢がよすぎて心配な面も大いにある」と指摘、ロンドンにおける岩倉使節団への狂歌をもじって、いくつか辛口の狂歌が紹介され、会場から思わず笑いが湧いた。

続いて来賓の、使節団副使大久保利通のご子孫である大久保利泰(としひろ)氏から、百四十年前のパリにおける使節団の姿がよみがえるようなエピソードを含むスピーチをいただいた。また、三の丸尚蔵館で開催中の「明治十二年明治天皇御下命人物写真帖(三頁参照)展」の図録について触れられた。木戸考允副使のご子孫でもある東大名誉教授の和田昭允(あきよし)氏からは、木戸家と和田



石垣事務局長

家に纏わる興味深いスピーチと乾杯のご発声をいただき、その後は暫し飲食と歓談の時間となった。

スピーチの再会前には、当会の企画、泉三郎理事長の資料収集・写真取材・シナリオ・ナレーションによる「DVD岩倉使節団の米欧回覧」(慶応義塾大学出版会)の第六章「麗都パリとフランスの底力」を鑑賞し、岩倉使節団が新年を迎えた百四十年前のパリとフランスを偲んだ。

再開後の司会・進行は近藤義彦理事がつとめ、久し振りにご参加の皆様の間況やメッセージを聞く全員参加の自己紹介タイムとなった。各位の豊富な内容を拝聴するには更に数時間は必要な状況で、和気藹々の盛り上がった新年懇親会となった。

(文責) 石垣 禎信
(写真) 近藤 義彦



後半の司会は近藤理事



DVD上映と泉理事長の解説



会場のテラスから望む「憲法記念館」



挨拶とスピーチをする泉理事長



近くの絵画館に展示されている画「岩倉大使欧米派遣」



来賓挨拶と乾杯は使節団ご子孫の大久保利泰氏(右)和田昭允氏(左)



信州歴史ツアー

募集のお知らせ

当会では、久しぶりに国内の歴史ツアーを企画いたしました。参加ご希望の方は、歴史部会幹事・小野(045-351-0777)まで、お申し込みください。予定人数(二十名)になり次第、締め切らせて頂きますので、早めにお申し込みください。

一・催行日時

五月十五日(水)～十六日(木) 一泊二日

二・主な旅程

◎第一日目は東京駅発新幹線にて長野駅に出て、バスで松代に回り、幕末の思想家として、横井小楠と並び称された佐久間象山(吉田松陰、勝海舟、坂本龍馬、山本覚馬、河井継之助、加藤弘之等に影響を与えた)を偲んで、象山記念館、象山神社、象山旧宅、蓮乗寺(墓)や真田宝物館などを見学、『夜明け前』『千



旧中込学校 (佐久市ホームページ)

曲川のスケッチ』等の著作のある島崎藤村の愛した小諸の藤村ゆかりの宿『中棚荘』に一泊。その日か、翌日午前中は小諸懐古園、小諸城址、小諸義塾、旧小諸本陣などを見学。

◎第二日目は、小諸で見残した所から、バスで佐久市に回り、旧中込学校(明治八年創建、国内最古級の洋風学校)、龍岡城五稜郭、藤村旧宅など見学の後、橘倉酒造(井出氏の実家で、元禄以来三百年の酒蔵)にて、井出家に残る先遣遺墨の数々(中江兆民、孫文、金玉均など数点)を見せて頂き、休憩し、新幹線・佐久平駅新幹線にて帰京。

三・費用

宿泊料金(一泊二食)とバス代、諸施設入場料込 三万円(現地徴収)

四・参考列車(各自負担)

○五月十五日(水) 東京駅発新幹線あさま511号(9:20)長野駅着(11:05)

乗車券3,890円+特急券3,570円+7,460円(各自手配)

○五月十六日(木) 佐久平発十六時十四分 新幹線あさま509号(16:14) 東京駅着(17:32)

乗車券2,940円+特急券2,720円+5,660円(各自手配)

五・詳細は申し込みいただいた時に、ご案内いたします。

坂の上の雲」の英訳本が出版される!

久米邦武編著「特命全権大使 米欧回覧実記」全五巻の英訳本を、二〇〇二年に出版した日本文献社の斉藤純生氏が、その第二弾として司馬遼太郎著の「坂の上の雲」の英訳出版を企画、八年がかりで事業を進め、ようやく本年中に全四巻の刊行(昨年末に二巻刊行)の運びとなり、二月十四日、有楽町にある外国人特派記者クラブで(BCC)、関係者百余名が参集して「Book Blog」の記念パーティが開催された。

日露戦争を題材としたこの大作は、これまで二度も翻訳出版が企画されたが、仕事の難しさや資金的な事情もあって実現には到らなかった。今回の出版は三度目の挑戦であり、斉藤氏ならではの高い志と豊富なキャリア、そして弛まぬ尽力が生んだ「壮挙」といえる。

当日は、主宰者やゲストからの祝辞をはじめ、翻訳に当たった三人のうちの二人、「モカーペンターさんとP. マッカーシー氏とからも翻訳にまつわる興味あるスピーチがあった。

斉藤氏も挨拶の中で、「坂の上の雲」はトルストイの「戦争と平和」に匹敵する歴史的な大著であり、「明治後

明治十二年明治天皇御下命「人物写真帖」

表紙は紺色の革装で金箔を用いた型押しに連珠円紋に鳳凰を表し、周囲にも尾長鳥や草花文様を配した荘重なもので、仕様は縦長横長など数種にわかれ、総数三十九冊、収録された人数は、皇族、大臣参議をはじめ、各界の功臣、地方官まで、なんと四千五百三十一名に及ぶ。

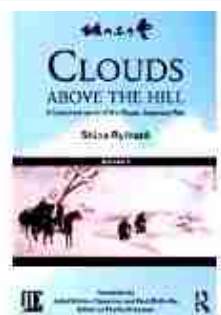
内容は、おおむね一頁に四名ないし六名の構成で、写真の出来も総じてとてもいい。人物はほとんどが洋服だが、すっかりそれなりの姿で収まっている。日本人の変わり身の速さ、適応の柔軟さは、見事というべきか。この大事業(撮影、編集、印刷、製本)を一年余りで仕上げたというから、これに携わった写真師はむろん理髪師、洋服職人、印刷工、装幀職人ま



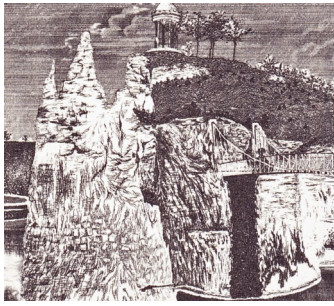
人物写真帖の表紙と背表紙

で、その仕事ぶりも凄いと驚かされる。岩倉具視や伊藤博文の写真も初見のもので、このアルバムのために撮影したものであろう。既に故人になつていた木戸孝允と大久保利通は既存のものが掲載されているが、西郷隆盛だけは無い。尚、頒布の図録(千五百円)には功臣ら三百七十三名が収録されており、岩倉使節団員及び関連人物はむろん、これまで写真の無かった人物にも初見参でできる。

期の日本人が遭遇した苦難の道を生き生きと描いたものとして、ぜひ世界に紹介したいと念願した」と述べている。問い合わせ・申込先は 日本文献社(047-312-2201) 一巻 八千四百円。



坂の上の雲・英訳本「Clouds above the Hill」



パリ、ピュット・ショーモン
の岩山と池(『実記』)

実記を読む会報告

担当幹事 小坂田 國雄

Tel&Fax 044-987-1531

osakadakunio5256@jcom.home.ne.jp



■ 第六十七回

十二月十三日開催、出席者十名。

通常の実記を読む会とは趣向をかえて、年末でもあるので、泉三郎理事長が、岩倉使節団の足跡を訪ねた際に撮ったスライドの英編を見せてもらった。

忘年会は、楓林で石垣さんと、多田さんも参加されて合計十二名で賑やかに開催された。

(文責) 小坂田 國雄

■ 第六十八回

新しい年を迎えて我々「読む会」一同も、使節団同様期待に胸はずませて、欧州大陸の大国にして、農・工・商のバランスのとれたフランスに学ぶべくやってきた。時あたかも混乱のパリコミュニン

の収まった直後。
(第四十一章、フランス総論、第四十四章、パリ、その三) 「フランスは文明頻発の枢なり」「人を得ば、勢威四隣に振るい、緩慢なれば内訌沸起す」「英の工業は器械を恃む。私は人口と器械と相当る」「政府貧なれど民皆富む」などは至言である。「仏人はほぼ我が日本人の気象に似たり」といつているのは、久米自身や、維新政府の主流たる西国人との類似性であるう。

第四十四章で、ペールラツシューズ墓地やピットショウモン公園を訪れつつ、パリコムニョンの混乱を思い、ナポレオン三世の社会福祉政策に言及している。久米の政治スタンスがうかがえる。

さて回覧実記を少し離れ、フランス革命から今日に至る三百余年の、フランス国政の激変ぶりを「揺れるフランス政体」として概観し、略年表の左欄に地震計のぶれのように、左、右、左、右とプロットしてみてあまりの激変に驚いた。使節団の訪問から約七十年間に百九回も政権が交代している!!

次に「渡仏者の系譜」として、まず日本人編、①文久二年の使節、②池田使節、③高野広八曲芸一座、④徳川昭武一行、⑤栗本鋤雲、⑥成島柳北、⑦西園寺、⑧兆民、⑨黒

田清輝、⑩藤田嗣治、⑪岡本太郎、⑫荷風、⑬薩摩治郎八、そしてアジア編として、①周恩来、②ホーチミン、③ポルポト、④パククネ、を調べてみた。詳細は省略するが、ポルポト政権の大半の閣僚たちが裕福な家庭に育ち、フランス留学し、教員出身でもあるのに、なぜ「教育不要」「都市を廃し、農村へ」「共同所有」「通貨廃止」そして虐殺という暴挙に突っ走ったのか、は我々一同の今後の課題ともなった。

(文責) 芳野 健二

■ 第六十九回

二月十四日開催。第四十五巻、第四十六巻。パリ府の記。出席者八名。

明治六年(一八七三)年一月十五日から二十一日にかけて、陸軍士官学校(エコール・サンシール)、ヴェルサイユ宮殿、下水道、モン・ヴァレリアン砲台・兵所(凱旋門から西3キロ)、射撃場、パン工場、ヴァンセンヌ城・武器庫、教練施設、兵舎、軍病院、フォンテンブロー城(東北六十キロ)、建築学校(土木学校)、鉦山学校、リュクサンブール王宮、フランス銀行等、市中は馬車で、近郊は蒸気列車に乗り、パリを東奔西走、名所旧跡、重要施設を見学。報告では見学箇所に軍関係施設

設が目立ったこともあり「フランスの軍事制度」、レ・ミゼラブルで有名な「下水道」、さらにグラランド・ゼコールとして高名な土木学校、鉦山学校に関連して「フランス高等教育の系譜」を取り上げた。

軍事制度は、久米が「兵機ノ事ハ秘密多ク、最モ觀察ニ難シ」で述べているように、なかなか全貌を掴みにくい。使節団のパリ訪問は、普仏戦争でフランスが敗北して二年経過していた。普軍の勝因は戦法に長あつたほか、大砲が鋼鉄製で威力に格段の差があつたためとされる。フランスとドイツとの争いは古くはガリア人とゲルマン人の確執に遡る。歴史的にはナポレオンの大陸蹂躪と敗北と退位の後も普仏間の闘争は続き、フランスの政治は、革命後、共和制となつたが王政復古があつたり、共和制に戻つたりと右に左に政権のブレはめまぐるしい。しかし、フランスの軍事制度の基本にはフランス革命に際しての人権宣言と憲法規定があり、幾多の曲折を経たものの、「文権優越の主義はフランス憲法制度上、動かすべからざる一大原則」となっており、この憲法制度は欧米諸国の憲法に重大な影響を与えたとされる。

(文責) 大森 東亜

英訳実記を読む会報告

担当幹事 岩崎洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

iwasakiyz1116@gmail.com



■ 第六十八回

十二月二十日、七名が出席し、Ch. 87 A Record of the Cities of Lyons and Marseilles を読んだ。

一八七三年七月十五日夜ジュネーブからフランスのリヨンに入り、二十日朝マルセイユ港から帰国の途に着く岩倉使節団米欧回覧の最終部分を、当番の大森さんのリードで読んだ。

リヨンで養蚕・製糸業を丹念に視察し、養蚕について詳細に描写しているのが印象的だった。当時微粒子病で欧州の蚕が全滅状態になり、日本から健康な繭だねを輸入し養蚕を復興することが喫緊の課題で、案内役フェ・ドステイアーニ領事はその目的で日本に派遣されていた様な状況だった。

そう言えば、二〇〇一年に開催された米欧回覧の会の国際シンポジウムで、ナポリ大学のシルヴァーナ・デマイオさんが「一八七〇年代のイタリアと日本の交流におけるフェ・ドステイアーニ伯爵の役割」という貴重な報告をしていたのを思い出した。



マルセイユ港の風景
 (『実記』)

岩倉使節団はここまでなんと一年七ヶ月もかけて米欧回覧をしたことになるが、その記録を読むのが英訳実記を読む会は、第一回を二〇〇三年一月如水会館で開催して以来、本日まで百八回十年を要している。

(文責) 岩崎 洋三

■第九九回
一月二十三日(水)開催。
Ch. 88 A Brief Account of the countries of Spain and Portugal

岩倉使節団は本国からの指令で急遽マルセーユから帰国したため、訪問するはずだったスペインとポルトガルに実際には行かなかった。それでも久米氏は両国に関して収集した資料を元に一巻を割いてその概要を記述している。その記述は広汎かつ網羅的で、イベリア半島の地理、歴史、制度、産業、宗教などについての一般的な知識を得るには優れた読み物になっていると言えよう。

しかし残念であるのは、使

節団が当時産業革命の先頭にあったイギリスやドイツ、フランス、アメリカなどの功利的な文物にのみ接して、一方のスペインやポルトガルの奥の深さ、精神の気高さ、そして心の豊かさに触れなかったことである。なにしろこの両国は、イスラム教徒からギリシャ・ローマの高度な文化を引き継ぎ、大航海時代を経て一時地球を東西二分して支配した大帝国であったのである。もしこの両国への訪問が実現していたら、ひよっとすると日本の近代化はもっと人間的に豊かなものになっていたかも知れない。

(文責) 井上 泰

■第一百回
二月二十一日開催、出席者七名。
Ch. 89 A General Survey of Political Practices and Customs in Europe

Noteの和訳を配布し説明。出席者がおおよそ二頁づつ交代で朗読(Read Aloud)。久米は、欧州の政治と社会を儒学者の立場から、東洋(中国)と比較しながら、独特の切り口で解析して、その結果を記述している。

東洋では、中国が大ききで突出しており、近隣諸国はおのずと従属することとなる。欧州では山脈、海峡等の自然条件で各国の国境がはっきり

しており、その中でそれぞれが力をつける。

東アジアでは、人種の違いは国家形成の有力な理由にはなりにくい。欧州では、人種が互いにその同族を増やそうとし、その習慣風俗を保とうとする民族の自主権・民族の自由を尊重する。

婚姻関係が国の存在に大きくかわり、各国が離合をつけているが、その約半分を、各王室の婚姻関係に割いている。それでもなお分り難いので、他の資料から得た各王室の系図を出席者に配布した。

言語も、民族の離合に大きな関係がある。宗教の違いにより、別の民族として存在したり、政治形態や社会の違いを生んでいる。

欧州の政治・法律の本質は、生命・財産の保護ということにあり、政治の要諦は、正義(ジャスティス)と社会(ソサイエティ)にあるという。「仁義」に帰着するようであるが、東洋思想の「仁義」は道徳から言う言葉であり、正義(ジャスティス)と社会(ソサイエティ)は財産保護の立場から言う言葉である。英訳者は、注で、孔子の教えの「仁」と「義」について詳しく説明している。

(文責) 小坂田 國雄

関西支部報告
担当幹事 難波 康熙



namba@jttk.zaq.ne.jp

■第六十三回
十一月二十一日開催、出席者五名。第二編第三十一巻「老丁堡(エデンボルグ・エデンバラ)府ノ記」208頁から。

今日では観光都市のイメージが先に立つエディンバラでも、明治新政府の産業視察団としての使節団は積極的に工場を見学している。天然ゴム(インディアン・ラバー)の加工工場では、通常の軟質ゴム以外に硬質ゴムにも加工している。鉄車輪の機関車のようにありながらゴムを緩衝材に使った路上走行の無軌道蒸気機関車の工場も見学している。さらに製紙工場も見学している。こちらは、大土地所有の資産家であるオーナーの大邸宅に招待されて歓待されているが、この製紙会社のオーナーは本来農業資本家であるジェントリ階級が産業資本家に進出あるいは転換した典型ではないかと思われる。

後半は、来る選挙を前にして若干人気と勢力が落ちたといえまだまだ巷間の注目を集めている政治勢力としての「維新」に因んで、維新の系

譜としての「昭和維新」について話し合った。

■第六十四回
一月三十日開催、出席者八名。第二編第三十二巻「ハイランド山水の記」230頁から。

ハイランドには視察する産業や工場もなく、もっぱら豊かな自然の観光を楽しむ地であるゆえに、久米邦武の漢文調の自然描写力が存分に發揮される場である。しかし、メキシコ暖流の恩恵で緯度が高い割には寒さが厳しくない地方とは言え、やはり北の荒涼とした風景も多いハイランドでは、久米の所謂「恍惚度」の高い南面風の漢文調描写力も少し控えめとならざるを得なかったようである。

後半は、米欧回覧実記を離れて近現代史視点での時事的問題を取り上げることとした。会員である北村彰一氏は長年教育に携わって来られた関係もあり、韓国の歴史教科書に興味を持ち、取り寄せられたとのことであつたので、現代韓国の歴史教科書についてお話を聞かて頂いた。

感心したのは、韓国の歴史教科書では近現代史の部分がかなり多いということである。結果として、歴史教育というよりも民族としての社会教育、民族アイデンティティ教育に重点を置いているように思えた。

(文責) 難波 康熙

特定非営利活動法人

「米欧亜回覧の会」ご案内

- 趣旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この歴史的な大いなる旅と「実記」は、まさに「温故知新」の宝庫といえましょう。
この素材を媒体に歴史を学び、現代の直面する諸問題についても自由に語り合う会です。
- 会員** 趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例会** 年に4回、全体例会があります。
- 部会** テーマ別に読む会、歴史部会、グローバルジャパン研究会等があり、映像サロン・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。
- 機関紙** 年に4回、機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 役員** 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。
- 会費** 年会費6,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、仮入会希望者、学生には地方会員、準会員、学生会員の制度もあります。
- 事務局** 「米欧亜回覧の会」
〒135-0021
東京都江東区白河 4-9-14-1407
E-mail: info@iwakura-mission.gr.jp
TEL: 090-4723-9705 FAX: 03-3641-9407
- 入会申込**
入会申込書はホームページと事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。
なお年会費などのお支払いは下記のゆうちょ銀行口座への払込(振込)をご利用ください。
00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

ホームページ

メッセージ・活動と内容・岩倉使節団・米欧回覧実記・会員のページ等
また、書籍・DVD案内もあります
<http://www.iwakura-mission.jp>

*お知らせ欄も時々チェックしてください



<催し案内>

2013年4月～6月の予定です

☆平成25年度年次会員総会と講演会

日時:平成25年 4月14日(日) 13:30～16:30

第1部 年次会員総会 13:30～14:15

第2部 講演会 14:30～16:30

テーマ:米国流アベノミックスの盲点

～『法』に目覚めると『真』に元気になる～

講師:上村達男氏(早稲田大学教授)

場所:国際文化会館講堂

懇親会:楓林(中華、麻布十番) 17:00～19:00

会費:2,000円(同伴者1,000円)、懇親会5,000円

☆実記を読む会

日時:4月11日(木) 14:00～ 担当:小林氏

5月9日(木) 14:00～ 担当:桑名氏

6月13日(木) 14:00～ 担当:小坂田氏

場所:国際文化会館401号室

会費:1,000円

☆英訳実記を読む会

日時:3月27日(水) 14:00～ 担当:檜原氏

4月18日(木) 14:00～ 担当:

5月23日(木) 14:00～ 担当:

6月20日(木) 14:00～ 担当:

場所:新宿3丁目ルノール会議室予定

☆歴史部会

*吹田尚一氏(元三菱総研常務)3回連続講演

日程:4月21日(日)②日本の対外発展「転機」を巡って～「大東亜戦争」への道～

5月19日(日)③「大東亜戦争」とは何であったか～五つの特質、その文明的意味～

時間:13:30～17:00

場所:国際文化会館(5月は学術総合センター)

会費:1,000円

☆関西支部例会

日時:4月27日(土) 12:30集合～16:30

昼食懇談会を持ち、13時より会合。

場所:大阪弥生会館

会費:1,500円+昼食代1,000円くらい

編集後記

◇今号はいつもより少ない六頁での発行となりました。小論集発刊の疲れがでたのでしようか、それともこの冬の寒さで、部会開催が少なかったのでしょうか。

◇新年懇親例会当日は、関東地方を襲った大雪の四日後。明治記念館庭園の樹木に張られた「雪吊り」も、今年には十分役割を果たしたのではないのでしょうか。懇親パーティー終了後、数人の参加者と一緒に、近くの聖徳記念絵画館に立ち寄り、山口蓬春画の「岩倉大使欧米派遣」を含む八十枚の絵画をじっくり鑑賞することができました。平日午後開催ならではの時間の余裕です。

◇五月の信州歴史ツアーは、三年前の中国・歴史と上海万博の旅以来、国内旅行とする二〇〇六年の薩摩歴史ツアーから、実に七年ぶり。すでに多数の申込みがあるそうです。それにしても、NHK大河ドラマ「八重の桜」で佐久間象山に扮する奥田瑛二、本物(一頁の象山肖像)にそっくりですね。

◇「坂の上の雲」の英訳版が日本文献社から出版されました。電子書籍(Kindle)版もあり。翻訳は大変でも読むのは手軽な時代となりました。